



福島県の学力調査の結果が公表されました。  
結果に対して、「今年の学年は・・・」と児童生徒のせいにしてはいないでしょうか？  
学力調査は、結果を分析し「**これまでの指導を振り返る**」ことが重要です。

## 指導を振り返る視点

全国平均正答率より高かった。

➡ これまでの指導のどこが効果的であったか。(成果)

全国平均正答率より低かった。

➡ これまでの指導のどこが課題か。

## 分析例 1

## 観点 国語への関心・意欲・態度の正答率

### 正答率が高くなると考えられる要因

- 言語活動の充実をめざした授業を行った。
- 個に応じた指導を行った。
- 伝え合いを意識して授業を行った。
- 児童生徒が関心をもつような課題を設定した。

### 正答率が低くなると考えられる要因

- 講義形式や一斉指導の授業が多かった。
- 指導書どおりの課題で授業を行うことが多かった。
- 児童生徒一人一人の意見を取り上げることが少なかった。



自校の指導を反省する。



授業改善につなげる。



## 分析例 2

## 観点 書く能力の正答率

### 正答率が高くなると考えられる要因

- 「書く」言語活動を授業の中に計画的に位置付けた。
- 自分の考えを自分の言葉で書くなどのノート指導を行ってきた。
- 定着確認シート（特に、条件作文）を行ってきた。



### 正答率が低くなると考えられる要因

- 穴埋め式のワークシートを使うことが多かった。
- 書くことは個人差が大きいので、言語活動としてはあまり取り上げなかった。
- 定着確認シート（特に、条件作文）は、採点に時間がかかるので行わなかった。

## 小中連携の視点

小学校 書く能力 全国平均より、かなり高かった。  
中学校 書く能力 全国平均より、かなり低かった。



「同じ問題、児童生徒ではない」ということを差し引いても、書く能力の差が小学校と中学校で大きかったことには、原因があります。ここにも、授業改善へのヒントがかくされています。

## 分析例 3

## 活用の正答率

「活用問題」の正答率を分析することにより、言語活動の充実をめざした授業に対する成果と課題が見えてきます。



## 活用の分析でチェックしたい指導事項

- 単元を貫く言語活動を設定して、授業実践してきたか。
- 学習指導要領の指導事項から「身に付けさせたい力」を授業に位置付けてきたか。
- 言語活動は、「身に付けさせたい力」「児童の実態」に適したものを設定したか。



例を参考に、自校の学力調査の結果を分析してください。次回は、具体的な問題をもとに考えていきます。